

① ゲストスピーカーを呼び、映像を使うなど。

② 基本的に何でもやる。

③ レポート+期末(参考書・ノートアリ)

Regionalism 地域主義・地域統合

地域的な集中/教育・資源の格差。

80%以上を占める都市圏の人とその他の地域の人との差異・文化的格差。

→「外国のよう」と言われるほど。

その一方で言語的統一がとれれば他国の同階級の生活の方が近いということも

④ ウォーレス・ステイン『unthinking social -』

人々は社会というものを national なものとする。(社会=国家)

時間軸に沿った development を見せる ⇒ 近代化・modernization、ほぼどの社会科学

⇒ グローバリゼーションにおいては時間軸に沿わない、あるいは同じ nation の内部

において異なる発展・衰退を見せる。

⇒ 既存のパラダイムから脱した研究が必要に。

その上で「地域」が 1つのキーワードに。

「地域学」

グローバリゼーションは地域によって恩恵もダメージも異なる表れ方をする。

「地域」という単位は伸縮自在。

⑤ 地域主義 ⇒ 過去の歴史と現在の actual な出来事という2つの視点が重要。

「北東アジア」

「東南アジア」

⇒

「北東」はワシントンの視点

日本固有の

N.E. 英語的。

S.E. 漢字圏的。

「東南」はアジアの視点

概念ではない。

「東南」や「アジア」という概念もそれぞれヨーロッパからの視点。

↑

→ 歴史的視点が重要。

戦前において

影響力を有した。

・ 地域主義は世界の重要なテーマの1つ。

ex. 米州機構。米対ラテンアメリカ。チャベスらが南北アメリカの協力を支持。

1928. "改造"

1968 "change the life"

2008 "change" 世界経済の破綻。

世界恐慌の前段階。

学生運動など盛ん。

東亜共同体を掲げる。

プラハの春。

"造反有理"

Region 化をすすむ。

位置的には北東アジア

明らかにこれは Regionalism. グローバル化。

(ドイツなども)

⇒ 敗戦により否定。

そのために戦後日本は中・韓にコミットした。

ASEAN に対し "ANEAN" はあり得るのか? 地域統合を阻害するものは? 北朝鮮の影響は?

現在の日本のシステムは少子高齢化・縮小再産的傾向の中でどうなっているのか。

→ 破綻は明らか。対策には大きな地域主義的視点が重要。

・ 地域統合には様々な問題。

安全保障・通貨・人権など。メディアも重要

一方でアメリカやヨーロッパの統合は進んでいる。

未来展望的
TJ 講義

を予定。

27. プロジェクトJAPAN. 戦争と平和の150年 ~国家から人間へ~

(戦争禁止の憲法)

(武力を背景としての安全保障) @ 法と武力が安全保障の両輪。

法 = 理想. WWII でくずれ.

ex. ス페인

NATO加盟国であると同時に「9条」の碑.

基地があるために攻撃対象となりうるため NATO脱退の声大きい.

法による平和主義の実現 ⇔ 軍・核兵器はなくなる. と意見わかれる.

教育の普及・貧困撲滅 = 途上国の地位向上こそが平和への鍵と考える人が多い.

世界的アムニティの結果.

冷戦終結 → それまで東西陣営による拒否権発動で国連は機能してこなかったが.

これからは国連が世界平和を実現すると事務総長ブロス・ガリが宣言.

⇔ 国連平和維持軍を派遣するも失敗. (ソマリア)

各国が軍という自らの主権を国連へ一部でもゆずるのを嫌がる.

(維然として強固なナショナリズムが残存. グローバル化が内向きに作用)

⇐ しかるグローバルな社会では遠く離れた地のことも無視できない.

日本の課題 = 国際社会に目を向ける. 世論の醸成. 軍の活動内容の把握. 外交が重要.

また. 冷戦の終結は米りが抑えてきた諸々の問題を一気に噴出させる.

アフリカ・中東といった紛争地域では教育・貧困の他に軍事力の強化もあがる.

→ 安全保障は国家単位から人間単位へ. 「国境」に対する疑問.

(戦争の形態が国家間から内戦へと変化)

これほどは外敵の攻撃に耐えうる武力が第一. ⇔ 飢餓・疾病といった細かいところへの安全保障が必須.

※ 重要なのは人権を大前提とし. さらにそういった視点をグローバルに広めること.

平和的生存権 (前文). 全世界での戦争放棄. 一人一人が平和を意識することによって世界平和へつながる?

とりわけアフリカは国連・NGOの課題とする.

平和も安全保障. 社会で幸せに暮らすことこそが「平和」であるとし. 平和を説く活動を行なう.

⇔ 貧困・内戦が続く. 平和はありえないと考えるアフリカ人も.

○ 米・同時多発テロ (2001)

→ ウォールストリート紙「核のない平和」(2007)

核が増えればそれだけ危険性が増す.

→ 「テロとの戦い」を掲げるアメリカは平和を求めながらも現在紛争中の地域には武力を以て

制するところの必要と考える. その上で「9条」は同盟の妨げと主張.

力の均衡. 帝國的ピラミッド という2つの平和/体制が崩壊へ

↳ トップは裕福. 下層は悲惨 = 「構造的暴力」

① 平和に対して日本は何ができるか？

ヒトラーやナチスを区別することによって戦争の過ちを正し、離れドイツに対して

日本はすべてが「アゲ」ではなく戦争責任を考えている。

★ 歴史の記憶・過ちは平和の構築に重要。被害者としてだけでなく加害者としての立場を考える。
(ex. 日本に南京、アメリカに原爆についての資料館)

「国立墓地」＝戦死者を英雄とし、次の戦争への動員へとつなげるというスパイラル。

韓国 → WWIIでは被害者。ベトナム戦争では明らかに加害者

★ 平和に対する感受性。他者の痛みを分かち合いそれを防ぐよう努めることが大事。

(WWIIでの空爆の痛みという記憶を現在の「ガザ」などに置き加える)

国家 $\xrightarrow{\text{という流れ}}$ 個人(人間)

この2つの概念を

つなげるのが「地域」

(国家の中・あるいはそれを超えた大小様々な地域という場)

2項対立としてとらえるのではなく、

地域に目を向ける。

⇒ 「地域」を考える上では

・ 平和/安全という土台

・ 歴史の記憶、自国民中心主義から脱した地域的な歴史意識の共有

← 教育・メディアが大きな役割をもつ

・ 通貨・貿易関係をどうもつべきか。

・ 資源・環境・エネルギー・病気・災害などの問題解決

が必要！

② まずは平和・安全の実現が不可欠。あらゆる学際的知識を集約。

日本のこれからを考える上でもやはり「地域主義的思考」/ 内向きであつたり無関心であつたりしてはならない。

平和・安全を地域主義的に考えるにあたり、日本は北朝鮮問題の解決が急務。

⇒ にも拘らず日本における北朝鮮研究はほとんど「行われていない」。

(カニングス『North Korea - Another country』
明石書店『北朝鮮とアメリカ。確執の半世紀』)

現在の北朝鮮 → 近・中距離ミサイルや核兵器などの脅威。軍事より外交がキー。

何が原因。解決策 etc. かを考へなくてはならない。

↑ ドイツ統合から類推できる？

域主義の講義にあり。

(1) ある価値に关系的・参加。

(2) 包括的・構造的アプローチ。

当事者間だけでなく全体の関係を見る。ー背景・構造を見渡す。

多元的・多極的な世界に対応するアプローチ。

↑なぜこのようなアプローチが必要とされたか？

⇒ vestiges of Cold War. 冷戦の痕跡

地域主義の視点に基づき N.E.C.H. を構築する。東北アジアエコハウス。

(米・日・中・朝・日を含む平等な同盟・経済的・軍事的・文化的な核)

ヨーロッパ程の犠牲を払ってこなかったこの地域は力をもちつつ不安定。

(3) 原因・過程を検証し、これからの日本の地域主義を考える。

日本の若者・株に希望がもてない ← 縮小再生産を考えるから。

日本にとどまらないより大きな地域主義的視点から拡大再生産を考えることでコースが変わる！

現状維持ではゆるやかに落ちていくのは明らか

投企しヴィジョンを見出して共有しあうことがないため「希望」がなくなっている。

◎ 講義に関心をもてない場合、なぜそうなのか自己反省するのも大事。

◎ 原因・過程を解明することで現状が見え、解決・ヴィジョンが見える。

project
投企

(どんな知識があるかと投企
せねば価値がつかない)

「実現されず」

organization gap, 非対称性

現在の東北アジア。

⇒ 反発と共存が同居する。(日中・日韓関係)

organization gap と並ぶ形で perception gap が存在する。

知識がそもそもメディアレベルでしかもたらされない = non-perception という状態にすらなる。

(perception gap の例ー徴兵制。日本人は想像し難い。)

アメリカの覇権が崩れ、マルチラテラルな世界へと進む今こそ N.E.C.H. の構築へ。

この地域に対する関心を持つ必要がある。問題を実感に近づける。

『JSA』/ 自分たちを善・北を悪とする二項対立的な描写を止め、人道的に描く。
南北兵士の同性愛を邪魔する女というメタファー
→中国などにも広がる。

中・韓ではアメリカ・韓国

Date

No.

5/25

オバマ「プラハ宣言」→日本に核投下しに責任、核軍縮・不拡散を目指す。
「ペリー・レポート」 北の核施設をスリス機で爆破→現状維持を前提として交渉。
北朝鮮の核武装が進むと核拡散および核の危険性が高まる

94年～非核化への努力始める (KEDO, 6ヶ国協議)

現在の北朝鮮は電力もなく軍も弱い → 核によって戦力を補う (アメリカすら核保有国と交戦しない)
狭い国土での核実験は危険・地下でも土壌汚染等

① 日本の対北朝鮮外交

- ・確固たる指針なし、リアリズムを持っていない。
- ・圧力はかけても相手の動きを分析できていない (核実験・ミサイル発射も許す)
- ⇒ 二十数年の外交政策に殆ど効果なし。

核問題を第一に解決すべき、他の問題と平行的解決は不可能。

→ 地域的・世界的な問題、リアリズムを持って対応する。

⇒ なぜあのような国ができてしまったのか、ということも考える必要がある (歴史的背景)

分裂・冷戦対立、現在まで続く対立関係。

『シルミド』 実話に基づく話、対立→デタラヘ。 } 映画を通じて冷戦型対立構造を知る。
『ブザー・ホープ』 チャン・ドンゴン

② アメリカ史

・ Civil War

戦死者は最低数十万人、碑には北軍の犠牲者のみ (韓国同様)

アメリカ人によって強く記憶に残る。

北と南のどちらが正しいかは意識される。 = 体制の違いからいずれは内戦が起る運命。



朝鮮戦争の場合、明らかに北が38°線を侵犯。⇒国連軍(米軍)が鎮静へ。

- ② { 1. 外因 (米ソの冷戦構造、W. スターク『朝鮮戦争』)
2. 内因 (Bruce Cummings『朝鮮戦争の起源』/ 農民とその工場間の矛盾が噴出)
3. 第三 (今まで分かっていなかったこと、ロシア語の膨大な文書がソ連崩壊後流出)
から内戦を考える

朝鮮戦争当時、中ソ対立は既に激しい。

北の38°線侵犯は 共産党による中国統一やソ連の対米思考なども要因に。

トルコ、オーストラリアも岸軍に参加。朝鮮戦争は準世界戦争とも言うべき規模

もし北朝鮮が統一していたら？ もしアメリカが核を投下していたら？

こういったことから分かるように、この戦争は日本に大きな意味をもつ。

6/1

国連・北朝鮮制裁決議

(長距離弾道ミサイル → 危険・宣戦布告に値する } 戦前・戦中の日本と状況が似ている。
中・日も非好意的・北朝鮮の国連脱退もありうる。

- ・しかし北朝鮮がどんな状況にあるかは確かだが、プロパガンダ的情報だけを見るのみにはならない。
- ・圧力だけで解決を図るのは危険・困難

考えられるシナリオ

- (1) 核 = 外交手段 → 6か国協議への復帰 2006.
日本や韓国だけでなく、世界の非核化・核不拡散にも関わる重要な問題
- (2) 核 = 保有・バキスタン化
一切の外交関係が途絶しても核保有国となり、長距離核弾道ミサイルを完成させる
→ 他国は制裁のしようがなくなる
- (3) 核保有と国交正常化を両立
ドミノ式に核保有国が拡大していく

(1)の場合は協議により国交正常化・平和条約調印が可能。

← 北朝鮮がどのシナリオを目指しているのかはわからない。

1994 金日成死去 → 97. 金正日 世襲 (社会主義であるにもかかわらず、むしろ宗教的・神権政治)

2012年は金日成 生誕 100周年、金正日は世襲カリスマなので、自らも父を超えるような業績が必要。

北朝鮮建国の影にはソ連が、正日はソ連領内で生まれロシア語を話せる。

↑ ソ連に忠誠を誓ったロシア系コリアンたちが戻ってきて活躍。

金正日 = 総書記・国防委員長 (国家元首・主席は金ヨントム)

→ 最も重要 (先軍政治) 労働党の役割は小さい。

現在、北朝鮮は中・日としか国交がなくて、外交的に不均衡。

→ (1)の手段により現状維持を図るという考え?

(クリントン政権時 米朝接近 → ブッシュ政権成立により X. Axis of Evil の一員とされる。

日本との接近を通じて米朝接近を図る (小泉政権時) → 失敗。

→ 金正日は無能・国内的にも疲弊

明確に要求をすることができず、矢継ぎ早にミサイル発射 (合理的判断ができなくなっている?)

○ 金大中 (民主党を支援してが政にブッシュと敵対し太陽政策失敗) をビル・クリントンが訪問。

この2人が特派員として金正日を訪問し、(1)~(3)のどれかを確認するのは?

どの国も北朝鮮の消滅を望んでいない (難民などの問題)

日米中韓の歩調合う

国連安保理決議 ⇒ 貨物船の検査、核物質を運んでいるかどうか
金融制裁、マカオ(北の唯一の国際取引場)封鎖。

⇒ これにも拘らず核実験を止めなかった場合
(。武力制裁 → 中国が応じない可能性。
(。海上封鎖。

IAEAの査察 ⇒ 核なし。95%は大量破壊兵器を保持していない。(今は?有、たとしてどこに?何の?め?)
核があっても戦争を行うのか? 限定 → 全面戦争に発展するに違いない
⇒ 限定的な状況で事態を打破するのは難しい。
戦争となったら日本に核弾頭が飛来する可能性も ⇒ 日本は戦争に加わるか?(おそらく同意は得られない)

⇒ 交渉しかない。
金正日の余命が短いといふと視野に入れねばならない。
(北は早く問題を解決していかなくてはならない)

1962年 実験炉の導入で北の核実験スタート。(ソ連の援助)
北朝鮮では天然ウランがとれるため。← エネルギーを他国に依存していた。原子力に目をつける?
(背景には朝鮮戦争)
1950.6.25. (今年と年。6月25日には何が起る?)

1970~80年代
= ソ連、米中接近 ⇒ 南北朝鮮を支える2大国がターゲットへ
= 朝鮮も変化を強いられる。
韓国を支えていたアメリカの軍力が撤退 ⇒ 核保有を考へる。

アメリカでは朝鮮戦争 = the forgotten war. さらに60年固依然として続いている。
公民権運動やベトナム反戦運動が60年代以降盛り上がる。
⇒ 朝鮮戦争は実態がメディアを通じて世界に発信される。反戦運動もあつた。何も解決せず
(1950年代 = アメリカ全盛期。朝鮮戦争はマッカーズを扇動 = 価値観がかわる。北朝鮮はよりネオコンなイメージ)
朝鮮戦争時に国家安全保障体制形成 / 国防費が10倍に ↑
メディアと大々関係

⇒ 日本。同盟により経済成長 (戦争は不況を脱する手段 ex. ルーズベルト期のアメリカ)
天祐神助。
。戦争に直接的には参加せず。基地供給。非常に現実的だが。北から見れば日本は敵。
⇒ 平和主義を主張する者。徹底した中立を求める (ヨーロッパ的平和主義。平和の取り所を国連に預ける)

60年間続く戦争状態を解決しない限り種々の問題解決はない!

→ 米・北の準首脳会談が重要。 { 今の所なし。
核放棄・平和条約調印。 } 危機的状況は続いている ⇒ どうなるかは分からない。

22

イランと北朝鮮は密接な関係。内乱しつつも原油高騰もありうる。 } 中東、サハラ以南のアフリカという
間接的に北朝鮮の核開発を早める可能性も。 } 地域に限定した視野では測れない!
(アメリカは二正面作戦をとらざるを得ない)

979. イラン革命。 イスラム原理主義が叫ばれるようになる。

fundamentalism: 復興運動

← それまでは宗教が主で政治運動をおこなうとは考えられていなかった。 = 衝撃的!

「イスラムがもう一度ヨーロッパを飲み込むのでは」という懸念。

同年にはサッチャーが政権を奪取 → 新・リベリズム台頭 (⇒ 現在ネolibが問題視)

韓国では大統領射殺。

社会主義の終焉が主張される (⇒ 資本論の見直しが必要)

⇒ 短期間に歴史は激動する。 対立的視点が必要。

◎ CSCE: 全欧安保協力会議 (アメリカ・カナダも含める) — ASEAN.F.

集団的な安保を考えるフォーラムが1975年にできる

→ OSCE. 1999年 / 常設的機構の誕生。

← 日韓も議決権はないがオブザーバーとして参加。

・ ドイツ統一には CSCE が不可欠だった (勢力均衡などの問題进行处理・冷戦を軟着陸させる)

⇒ 朝鮮は CSCE のような機構ではないだけでなく、

停戦状態であり 北朝鮮は日米との国交をもたない。

アジアは朝鮮戦争・ベトナム戦争と冷戦が「熱戦」へと発展している。

→ 戦争勃発も。 非対称性や北朝鮮の核の問題に。

北朝鮮が崩壊した場合にも。 日・米・中・韓・露への影響が大きい (様々な問題浮上)

⇒ まずは CSCE のような組織が必要。

6カ国協議がそこまで発展できる? ⇒ 2-3ヶ国で多国間の常設フォーラムにするべき。

⇒ しかしヨーロッパのやり方を踏襲するだけでは不可能。

現在韓国は中・露と関係を築き、日米の国交のない北朝鮮より圧倒的優位にある。是正!

南北米中の4ヶ国による停戦協定の終了合意が必要。

◎ 問題はアメリカが北朝鮮と一対一のようなコンタクトをとるが。

北朝鮮にとって核はどのような手段なのか。

映画や講義によって北朝鮮のイメージが変わったか、変わらなそう変わり、たか。
現在の北朝鮮をめぐる問題の解決策

Date

No.

↑ 自分が思ったことを率直に書く

① 日本と北朝鮮は?

依然として日朝平和宣言は生きている

⇔ 拉致・歴史の問題が残存しているため先へ進まない

(金正日から若い世代へ交代が生じた場合、内部が急速な若返りにより、強硬化、
軍部で強硬派の若者が台頭し始めるのでは?)

日本と北朝鮮はほとんど貿易をしていないため独自の制裁が不可能 → 中国が重要

→ せめてオザンバーを置く

交渉することと妥協することは違う。北朝鮮を交渉の場へ引き出す。

(北が核保有国を目指している場合 → 1VS5の対立(戦争?)

(核が単なる交渉手段だった場合 → 6ヶ国協議での交渉、常設フォーラムをすべき

⇒ これらのことを実現するには政治的リーダーシップが必要

6/29. ディスカッション的講義

① 一番最後の授業は出ないしテストやばいらしい

・ 映画『JSA』内で南側のみ自殺したのはなぜか?

圧縮近代

→ 南の方が自由だからこそ、より脆弱なパーソナリティ/社会の内部矛盾が表に病的になりやすい

・ 北側兵は金親子を現人神のように盲信しているわけではないが、北にすることに一定のメリット

生命は拒む

・ 現在の韓国はアムステルダム的な世界と野生地域・危険地域が近くにある特異な地域

世襲後の
摂政

・ 南の2人は死ぬ必要があったのか?

国家保安法の存在、罪責感、社会への影響

特に韓国の若者の抱く「夢のなさ」

・ 北、3代目も世襲となったら民主化困難?

← 台湾は2代目まで世襲の民主化

・ 北が内部崩壊する可能性 → あって構わない

あらゆる権力を握り恩給を与える金に反発する勢力なし

・ 北の中流階級の人「シカゴは管理がきついから嫌」

← 我々も北へのイメージがらするとおかしい

しかし北の社会をほとんど知らない。北の人々のパーソナリティが伝わっていない

J. ダウ『War without Mercy』(人種戦争) 戦争とアロパガンダ、敵のイメージを染みこませる

(WWIIの日米、朝鮮やイラクに対する破壊的・組織的イメージ)

② 事実を知ること - ならば社会の人々一人一人の顔が見えるようになること

考えは千差万別、大事なはそのスタンスが正しいこと

・ 中国は北が南に飲まれ在韓韓軍が国境線まで来るのを恐れる

少数民族の分離独立運動もあつる → 現状維持派もある

現在のメディア状況では

この考えはマイノリティー

⇔ マジョリティーは意見に説明がない

多数派だから、外れでも何もない

★ 討議案について.

。講義を通じて北朝鮮へのイメージがどう変わった・変わらなかったか。

。問題解決法とその道すじ

→ 現在およびその歴史的背景

。自分が問題だと思ふ点について。

自分が — という立場なら — という方法で解決する。

E. Said 『Covering Island』 1979. イラン革命後

① 報道
② 隠蔽

① イラン・イラク・北朝鮮などに対して、我々は過剰に知っている面と全く無知な面を共存的に持つ。
⇒ メディアの cover. プロパガンダ

デモがある = イランは北朝鮮などの国と比べてはるかに民主的

⇔ 内情をよく知らない。固定観念を拘っている。(日本人だけでなく欧米人も同様)

{ 象徴的なパーソナリティ: 個人心理学の対象. 固有名詞として存在

{ 国民のパーソナリティ: 群集心理学の対象. 1人1人が見られない. 固有名詞は存在しない

← 戦時のプロパガンダと同様.

戦時期「Know your enemy」: 敵を動物・害虫のように表象

個人が見られず害虫の群れとして駆除の対象 ⇒ せん滅戦

(現在の戦争: 非対称的. 殆ど警察行為/同様のプロパガンダが働いている)

。象徴のパーソナリティを通じてその国のすべてが説明できることをした。(やっている)

ex. イスラム. 韓英様. 北朝鮮

⇔ ではその逆はどうなのか? (戦時期の日→米. 朝鮮半島の朝→米. 現在の朝→米)

⇒ “鬼畜米英” というイメージ. プロパガンダ. 北朝鮮は戦前の日本がよう.

= 日本が最大の理解者となる。

{ 常識

{ 批判的評価 を持つメディアを疑う

[北朝鮮について事実を詳しく検証せず]

[何を言おうととりあげられている]

多様な意見が出てこない (多争論がない) ということが一番の問題

① “なぜ” ~ という行動をしたのか”など理解を深めることで相手を知らねばならない。

理解不可能 とされる他者を理解するとは どういうことか. しかし理解しないと事態はくり返される

“よくわからない他者”として封印してはならない。